

白布城だより 2018 夏

〒32-4331 栃木県真岡市白布ヶ丘24-1

☎0285-82-3413 Fax0285-82-2913

巻頭言

様々な経験が子どもたちを育む

教 頭 山下 拓男

保護者の皆様並びに定時制後援会、地域の皆様には、日頃から本校の教育活動にご支援とご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

私は、今年度から本校定時制教頭を務めさせていただくことになりました。微力ながら生徒たちのために尽力してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度は例年以上に多くの生徒が入学し、25名の新入生と1名の編入生を迎え入れました。初めは緊張していた新入生たちも、給食を一緒に食べ、授業や部活動などに参加するうちに、ほどなく学校生活になじんでいきました。

年度当初に、私は渉外担当の教員とともに、定時制後援会の役員の皆様の会社を訪問させていただきました。その際、「真岡高校の定時制の生徒は、挨拶や態度がしっかりしていて、入社後も即戦力になってくれている」という、お褒めの言葉をいただくことができました。

私たち教員は、生徒に基礎学力を身に付けさせるとともに、自信を持たせ、自主性や社会性を育むことを心がけて日々の教育を行っていますが、同時に、またある意味それ以上に、アルバイトを含め就業経験を積んでいる生徒たちも多く、実社会の中でも貴重な学びを得ながら成長しているのだと思います。

また過日、定時制後援会の総会の場において、本校の年末の恒例行事である、真岡西ロータリークラブとのボランティア活動について感想を述べたくださった会員の方がいらっしゃいました。昨年度は、ゴミ拾い活動の後、ロータリークラブの方々と生徒たちが、本校給食室で共に食事をとりながら話をする場が設けられましたが、実際に話してみて、定時制の生徒がともしっかりしているという印象を持ったと同時に、子どもたちのことを知る貴重な時間であったとおっしゃっていました。生徒たちにとっても、ロータリーの方々と活動や交流は、きっとよい経験であったと思います。このような異世代間の交流が生徒の内面的成長に果たす役割は大きいと思います。

これからも生徒たちには、日頃の授業や様々な学校行事のみならず、本校定時制を支援してくださる多くの皆様との交流などを通して、たくさんのことを考え、学び、健やかに成長して欲しいと思います。

今後も、教職員一丸となって、生徒たちの成長のために努力してまいりますので、保護者の皆様並びに定時制後援会、地域の皆様には、本校の教育活動へのご理解・ご支援賜りますようお願い申し上げます。



気概あふれる入学式

4月6日（金）、平成30年度の全定合同入学式が、本校講堂で行われました。

新入生呼名に続き、軽部幸治校長が、「入学を許可された皆さんに、自覚と信念を感じた。善と信ずることには誠を尽くし、誠実な気持ちで事に当たる『至誠』という本校の校訓を实践して欲しい。それが、『真高プライド』です。」と、式辞を述べられました。続いて佐藤 勉同窓会会長、全定 PTA を代表して全日制の富山英幸会長が壇上に立ち、「旧制第三中学校からの先輩の思いを受け継いで、精進して欲しい。」「日本一熱い男子校、日本一熱い定時制という目標の下、『白竜千里旗』を掲げて、千里の果てまで情熱と意欲を持って邁進して欲しい。」との祝辞を述べられました。

新任式・離任式・始業式・対面式

4月9日（月）、この春、新たに本校にお迎えした軽部幸治校長先生、山下勉男教頭先生、小森法史先生（英語科）、篠原義勝先生（理科）、横川航一先生（数学・情報科）の紹介に続いて、この春で本校定時制を去った先生方の紹介がありました。

「自然の木々は、何もしくなくても花をつける。しかし、年、一回だけだ。人間は、年に何回も花を咲かすことができる。皆さんは、勉強でも、部活動、アルバイトでも、それぞれに大きな花を咲かすことができるのだ。自分の成長のために頑張って欲しい。」と、退任された菊地 透前校長先生は述べられました。また、宇都宮高校に転出された徳原 肇前教頭先生は、「在校生の皆さんは、数ある高校の中から、よくぞ真岡高校定時制を選んでくれた。君たちを待っている将来に向けて頑張って欲しい。」また、那須高校に赴任された高久聡詞先生（数学・情報科）は、「卒業を迎えたとき、やり残したことはない、と言える高校生活を送ってください。」と、それぞれの先生からメッセージをいただきました。

退任、転任された先生方の、更なる御活躍をお祈りいたします。

続いて行われた平成30年度第一学期始業式で、着任されたばかりの軽部校長は生徒達に、「共に、本校に入学して良かった、という学校づくりをしていきましょう。真高で学ぶプライドを持って、一生、役に立つことを学んで、価値判断のできる人、実行できる人になって欲しい。地道に仕事をする人たちの気持ちを分かる人になって、高い目標を掲げて高校生活を送りましょう。」と述べられました。

最後に、新入生との対面式が行われ、平成30年度の学校生活が始まりました。

新入生歓迎会・身体計測・職業適性検査

4月10日（火）、新入生歓迎会を始め、身体計測と諸検査が行われました。

新入生歓迎会では、山下教頭先生が、「給食はおいしかったですか？」と、和やかに話され、「チャレンジという言葉に心に留めて、これからの学業、部活動、生徒会やアルバイトなどの学校生活を充実させ、今までしたことのないようなこと、例えば、近所の人たちへの挨拶、公道のゴミ拾い、そして5分早く家を出る、などの行動をとって欲しい。すべて、新しい自分を築くチャレンジです。」と話されました。

続いて、先輩から、クラス紹介や部活動紹介、生徒会役員紹介があり、新入生代表から「真岡高校定時制の生徒として、胸を張れるよう努力していきたい。」との挨拶がありました。

解散後、身体計測を行った後、各教室でそれぞれの職業適性検査を受けました。

心臓検診、その他の各種検診

今年度も、4月11日（水）の心臓検診を最初に、結核検診、腎臓検診、内科・歯科検診が行われました。健やかな日常生活は、健康な体から生まれます。皆さんも、日頃から健康的な暮らしを送るよう心がけてみてください。

一般道はみんなの道路、自分の我が保は…！

肌寒い一日となった4月18日（水）、恒例の「交通講話」が、真岡警察署交通課の石村巡査長を講師にお迎えして開催されました

まず、軽部校長先生が、「被害者はもちろん、加害者も悲惨な思いをする。十分、注意して行動して欲しい。」と挨拶された後、石村巡査長が講話されました。巡査長は、「だれも事故を起こそうとして起こす人はいないが、自己中心的な運転の結果、事故を迎え入れてしまうことになる。特に、自動二輪車が凶器だ。『起こしてしまった』時では、もう遅い。安全運転は、自分のためはもちろん、家族のため、全ての人のためでもある。」と話されました。

最後に、本校の佐藤成之先生が、「歩行中のスマホの危険性」についてお聞きしたところ、巡査長は、「スマートフォンの操作・使用は、どうしてもそれに集中してしまい、周囲への注意が散漫になってしまうので、最も危険な行為と言える。」と話されていました。

生徒の皆さんだけではなく、すべての皆さんに共通した認識ではないかと思いました。

勉強は、やっているうちに好きになる！＝創立記念式典

初夏のように暖かな4月20日（金）。本校の118回目の創立記念日を迎えました。



記念式典で、校長先生は、「宇都宮、栃木に続く三番目の旧制中学校として開校したのが、真岡の第三中学校で、いわゆる、今日は本校の誕生日。人生とは、一枚の布のような物である。学校の中も同じだ。本校定時制の先生方は、いつも、生徒達の話をしている。こんな学校は稀だ。先生方の縦系と生徒達の横系が、やはりしっかり結び合っている証拠である。今までの伝統を大切にしながら、みんなの新しい活力ある息吹を吹きかけて欲しい。そこから、『真高プライド』が生まれる。」と述べられました。「今日の一日が、歴史になる。」ということ、私たちは胸に留めて生活を送らねばなりません。

災害は、無慈悲の我々のところに！

雨も上がって晴れ間も見えるようになった4月25日（水）、「防火・防災講話」が開催されました。今年度は、「異状気象による被害」について、私たちが、日頃から頭の片隅に置いておくべき意識についての話が、篠原義勝先生（理科）からありました。

近年、巨大台風や竜巻、地球温暖化や大地震など、地球を取り巻く環境は大きく変化して、私たちの生活に与えるダメージも目に見えて過激になっています。

篠原先生は、そのようなさまざまな被害から身を守るための「5つのポイント」を挙げられました。①情報の把握②外出は控えること③家の外回りの点検④窓締めの確認⑤非常食・非常用飲料の備蓄、です。

私たちは「自然の力」の前では無力です。御家庭でも話題にして欲しいと思います。

生徒総会、開かれる。



一般社会の企業と同様、学校でもこの時期に「生徒総会」が開催され、昨年度の報告と今年度の予算・予定が審議されました。

会は、司会を橋本明奈さん（3年次）が行い、議長の野沢 裕也くん（4年次）と副議長の鈴木政平くん（4年次）が選出されて始まりました。各生徒会役員の報告があり、滞ることなく進行して無事終了することができました。

今年度、特筆すべきことは、「その他の議案」で、柔道同好会が発足したことです。新入生を含めた生徒2名が参加し、大谷 武先生（国語科）が顧問となって活動を開始することになりました。今後の健闘を祈ります。



PTA総会、開催

ようやく学校内の空気も落ち着きだした5月18日（金）、PTAの総会が本校自習室で開催されました。

総司会を、熊井清晃先生が担当し、議事進行を会長の塚田嘉代子さんが行いました。議事は滞りなく進み、最後に、任期満了となった塚田会長に代わり、橋本明奈さん（3年次）の保護者、橋本清二様が新たな会長に就任されました。どうぞよろしくお願いいたします。

新体力テストで持ち味発揮

本校の、人工芝校庭に初めて足を踏み入れた生徒もいた5月30日（水）、50M走、立ち幅跳び、ハンドボール投げの三種目の記録会が行われ、31日（木）には、場所を体育館に移して、握力検査、反復横跳び、上体起こしやシャトルランの測定が行われました。

特に、シャトルランなどでは、日頃おとなしい生徒が最後まで頑張る姿などを見せてくれ、「真高定時制の生徒も、なかなかやるな！」という印象を鮮明に打ち出してくれました。

身近にある人権問題

小雨が降り、関東地方で梅雨入りが宣言された6月6日（水）、「人権教育」が多目的ホールで行われました。

今年度の講師は、篠原義勝先生（理科）。篠原先生は、「インターネット系での、知らず知らずのうちに友だちを傷つける可能性」について、DVDを視聴しながら説明されました。そして、「このような機会を、『考える』きっかけにして欲しい。複雑な人間社会に出てからも、一層、言動に注意して欲しい。」と述べられました。

近年、ネットを悪用した事件が増加していますが、人をおとしめたり、だましたり、プライバシーを侵害したりすると、泥沼にはまり込んでしまう事例が増えています。私たちは、起こってからでは遅い、ということ、心を留めて行動しなくてはなりません。

生徒会役員選挙

6月13日（水）、後期の生徒会長、副会長を選ぶ選挙が行われました。結果、次期生徒会長に、橋本 明奈さん（3年次）、生徒会副会長に田上 祐子さん（3年次）と安田 幸一くん（2年次）が選ばれました。2学期に入ってから、任命式が行われます。

頑張る本校生！県高校定通総体

今年度の第56回目の栃木県定通総合体育大会が、県総合運動場、宇都宮工業高校、宇都宮高校を会場に行われました。また、陸上競技は、会場の関係で次週、大田原市の



美原運動公園で行われました。

本校からは、陸上競技、バドミントン、卓球、剣道、柔道の各種目に参加。選手達は、日頃の練習成果を発揮して試合に臨んでいましたが、4種目で全国大会の切符を獲得しました。詳細は、「トピックス」をご覧ください。

進路ガイダンス・6.20

高校生は、いわば、社会人となる「滑走路」を走る飛行機。大空に羽ばたくときに、堂々と自分の持ち味を発揮できる業種・職種を選択できるよう、しっかり準備をしなくてはなりません。

本校では、進路指導の一環として、年3回のガイダンスを行っています。今回は、職業選択のための体験型のガイダンスが中心。第一部では、真岡工業団地にある「富士ファイバーグラス株式会社」の大島 勝氏を講師にお迎えして、『求められる社会人像』についての講話がありましたが、それに先立ち、本校定時制の卒業生である中村けんちろ氏が経験談を話されました。第二部は、食品系や建築系、情報系や保育系などに分かれての体験学習が行われました。生徒は、それぞれに楽しみながら学んでいたようです。



定時制後援会総会、開催

6月22日（金）、フォーシーズン静風において、本年度の定時制後援会が開かれました。事務局担当の熊井清晃先生の司会進行で会は進みましたが、定例事項の協議の後のフリーのディスカッションの席上では、これまでになく活発な意見が出され、私たち、真岡高校定時制に携わる者として、身の引き締まる思いがしました。そして、学校周辺の皆さまに支えられて私たちの学校生活が成り立っていると、改めて考えさせられました。



心身に傷をつくらないために

暑さが厳しい7月11日（水）。芳賀日赤病院の糸井看護師長を講師にお迎えして、今年度の「性に関する講演会」が開かれました。

生徒達は、過去にも、機会ある度に視聴した内容ですが、生徒達は、他人事ではないテーマに対して糸井看護師長の話を真剣に聴いていました。

性衝動、性交渉、性病などの講話内容の他に、思春期の特徴的な思想形成の時期に合って「愛」という言葉の本当の意味も考える時期に差しかかっているのではないのでしょうか。

ここに傷を創らないよう、自己コントロールを第一に、考えて欲しいと思います。

真岡ライブラリーとの交流会

うだるような暑さが続く7月18日（水）、橋本明奈生徒会副会長をはじめ、4人の本校生が、「真岡ライブラリー」の皆さんと交流を持つ交流会が行われました。

帰校後、本校生は、口々に楽しかったと話していました。このような、他校との交流は、思わぬところで新たな展開があるものです。

今後とも、楽しく充実した交流をしていって欲しいと思います。

個人の体験を、堂々と！

「生命に危険が及ぶ暑さ」と称される昨今ですが、7月18日（水）、従来、「多目的ホール」で開かれていた「校内生活体験発表会」を、急遽、エアコン完備の「給食室」をお借りして開催しました。

各クラスから選出された代表13名がエントリーしましたが、クラス代表は、みんな堂々と発表していました。

軽部校長先生を審査員長とした5名の先生方の審査の結果、谷田部侑弥くん（2年次）が最優秀賞に選ばれ、鈴木政平くん（4年次）と石川飛砂雄くん（4年次）とが、優秀賞に輝きました。

谷田部くんは、10月に宇都宮市で開かれる県高校定通文化発表会に、本校代表として出場することになりました。谷田部くんの、今後の頑張りに期待しましょう。

猛暑の中、頑張る。

熱中症が心配される暑さの7月19日（木）、第1学期の校内体育大会が行われました。今学期の種目は、バドミントンとフットサル、卓球です。生徒達は、暑さでダメージを受けている人もかなりいる中、ゲームに熱中して頑張っていました。

結果は、「トピックス」の通りです。



「よくぞ、真岡高校を選んでくれました！」—終業式

記録的な暑さが続く今日この頃ですが、7月20日（金）、第1学期の終業式が行われました。会場の多目的ホールもうだるような暑さでしたが、気分不快を訴える生徒は一人もなく、予定されたプログラムが実施されました

式に先だって行われた「表彰・表彰伝達式」では、この1学期に活躍したさまざまな分野の優秀者が表彰されました。

式では、軽部校長先生が、「1学期によいペースができたので、そのペースを夏休みに乱さず、2学期の始業式を迎えて欲しい。」と話され、生命の大切さや交通事故にあわない心構えなど、「安心・安全」を胸に生活を送ろう、と講話されました。

トピックス

第1学期 表彰・表彰伝達

○第1学期皆勤者(14名)

4年次 佐藤 未来 野沢 裕也

3年次 大高 紘章 関谷 優作 増渕 晃大 吉羽 彩花

2年次 佐藤 政則 高田 智也 田辺 厚

1年次 篠崎 終人 高橋 昇 ナリカ・ルイス プエノ・ヒロミ マルケズ・カルロス

○校内体育大会

優 勝 ◆バドミントン 4年次 A ◆卓 球 3年次 1組 ◆フットサル 2年次 2組

★第57回栃木県高等学校校定時制通信制総合体育大会

◆卓 球 男子個人 優勝 片岡 龍佑（4年次）

女子団体 第3位

◆剣 道 男子個人 準優勝 石川飛砂雄（4年次）

◆柔 道 男子個人 第3位 谷田部侑弥（2年次）

男子団体 第3位

◆バドミントン 男子ダブルス 第3位 吉内祐人（4年次） 上野 滉（2年次）

◆陸上競技 男子砲丸投げ 準優勝 関イッテボン（2年次）

女子200M 準優勝 篠原 優夢（1年次）

★実用英語検定 2級合格 ナリカ・ルイス マルケズ・カルロス

★平成30年度前期芳賀郡市卓球団体リーグ戦大会

準優勝 チーム名：MOKA ナイト（佐藤 政則（2年次）田辺 厚（2年次）

長谷川優輝（2年次）篠崎終人（1年次）

平成30年度教職員紹介

校 長 軽部 幸治

教 頭 山下 拓男

国語科 河上 敦朗 2年次副担 大谷 武 4年次副担

地公科 熊井 清晃 4年次担任

数学科 古澤 秀友 3年次担任 横川 航一 1年次2組担任

理 科 篠原 義勝 2年次2組担任

保体科 佐藤 成之 1年次副担

英語科 木村美津子 2年次1組担任 小森 法史 1年次1組担任

家庭科 新井 紀子

養 護 鈴木久美子 3年次副担

実習教員 渡邊 貴志

事務長 松本 俊雄 主 査 堀野 征則

公 仕 伊澤 吉光 学校栄養士 森田 彩子

平成30年度在籍一覧及び(1学期出席率・7月4日現在)

1年次1組 11名 (98.0%) 2組 12名 (95.6%)

2年次1組	9名	(96.0%)	2組	7名	(98.5%)
3年次1組	13名	(89.7%)			
4年次1組	12名	(86.0%)			
			全 校	64名	(94.0%)

白布の風～あがきに代えて～

保護者の皆様、そして、ご近所の皆さまや定時制後援会の方々、お元気に御活躍のこととお喜び申し上げます。

2018年(平成30年)も、いつの間にか8月を迎えようとしています。寒さの厳しかった今年の冬の記憶も、まだ、脳裏に残っていらっしゃる方も多いと思われますが、それにしても、この暑さは、並大抵のものではありません。お身体の具合はいかがですか。毎日、熱中症の話題が報道されていますが、実際、他人ごとではないと、切に感じている今日こ

の頃です。

さて、真岡高等学校定時制課程も、この4月に多くの入学者を迎え入れました。今学期の半ばからは新入生も校風に慣れて、真高定時制生らしい学校生活が展開されだしました。無論、個々の生徒にはそれぞれの悩みや心配事もあるようですが、それを乗り越えてこそ、一人前の大人として立派にこの社会の中で活躍できる人材になるのではないかと思います。「人は、苦悩しながら大きくなる」ということは普遍の真理だと思います。

今年の上半期を振り返ってみると、大阪府での地震や西日本豪雨など、自然の計り知れない力をまざまざと見せつけられたわけですが、それ以上に、地球規模での諸問題が山積しているのが現実です。そのような中で、小惑星探査ロケット「はやぶさ2」の活動は、私たちにロマンを感じさせてくれ、なんとなくワクワクした気分になさせてくれます。これまでになく成果を挙げられるものと、期待は大きく膨らみます。

7月いっぱいはずっと言われているこの猛暑の下、生徒の皆さんをはじめ、保護者、地域の方々、そして定時制後援会の皆さまには、どうか、この掛け替えのない「平成の夏」を充実した時間にしていただき、平穏無事に過ごされますよう御祈念申し上げます。

河上 敦朗(記録・広報係)
大谷 武(記録・広報係:文責)
横川 航一(情報・視聴覚教育係)